

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書

(1) 学校教育目標	心豊かに、たくましく生きぬく人間を育成する。 (1) 進んで体を鍛える子 (2) 進んで学習に取り組む子 (3) 仲良く助け合う子 (4) 根気強く実践する子
------------	--

学校整理番号	特2
学校名	青森県立八戸盲学校
対象障害種別	視覚

(2) 現状と課題	(現状) 在籍児童生徒数は9人で、ここ数年は横ばいである。特別支援学校としては小規模校であるが、地域における特別支援教育のセンター的機能を果たしながら、視覚障がいを中心とした教育の充実に取り組んでいる。人事異動により、視覚障がい教育の経験豊富な教員が数名となり、専門性の維持及び指導技術の継承が課題となっている。 (課題) 障がいの理解啓発を含め、地域の理解と協力を得るところがやや不十分である。地域の中で活動し、将来的に地域で自立した生活ができるようになるため、地域を生かした体験学習の充実を図っていく。
-----------	--

自己評価実施日	令和 7年 1月 22日(木)
学校関係者評価実施日	令和 8年 2月 4日(水)

(3) 重点目標	1	運動の習慣化と体力の増進、健康に関する知識と技能の定着、食育の充実、危険を予測、回避する能力の育成により、健康で安全な学校生活を送れるようにする。
	2	基礎的・基本的な学習の定着、探究的な学び、興味関心を広げる学習により、授業の充実を図る。
	3	道徳教育の充実、自己有用感、自己肯定感を高める学習活動、互いの良さを認め合える活動、自分を表現できる力の育成により、豊かな心とコミュニケーションを養う。
	4	保護者と連携した教育活動、学校運営協議会の学校運営への参画、地域資源を生かした学校行事や校外活動、障がい理解のためのゲストティーチャー派遣、教育相談により、地域貢献を図る。
	5	キャリア教育の充実、情報化や国際化に対応する教育の推進により、時代のニーズに応じた教育の推進を図る。
	6	業務の仕分けと整理整頓、年休の計画的消化の促進により、働きがいのある教員の働き方について改革を推進する。
	7	服務規律を遵守しつつ、学校組織としての在り方を共有し、実行力(成果責任と業務遂行責任)の向上を図る。

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員 10名
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者就業・生活支援センターみなど副センター長 ・八戸市立柏崎公民館館長 ・八戸市シルバー人材センター理事長 ・種差海岸インフォメーションセンター職員 ・柏崎地区連合町内会副会長 ・青葉町内会会長 ・八戸盲学校PTA会長 ・八戸聾学校PTA会長 ・八戸盲学校同窓会会長 ・八戸聾学校同窓会会長

(4) 結果の公表	学校運営協議会委員や保護者、教職員には、結果を書面で配付し、学校運営協議会や保護者集会、職員会議で説明した。その他に学校のホームページで公表する。
-----------	---

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	・運動の習慣化と体力の増進 ・健康に関する知識と技能 ・食育の充実 ・危険を予測、回避する能力	朝の時間や体育、休み時間、部活等で運動する機会を確保するとともに、授業や給食等で健康や安全、食育に関する指導を行う。	生活目標の評価を定期的実施した。食事の取り方、栄養などについて学ぶことで、好き嫌いを克服するよう努力する姿が見られ、給食の残食量も減少している。	A	児童生徒の体格に合わせた食事量や栄養のバランス等を考慮した給食や寄宿舎の食事が提供されている。今後も実態に合わせた食育が大切である。	自分から取り組めるような健康安全面に関する指導の機会を増やす。また、運動習慣や食事、長期休業の過ごし方について保護者と連携しながら進める。
2	・基礎・基本的な学習の定着 ・興味・関心を引き出す授業 ・主体的対話的で深い学び	児童生徒の実態を的確に把握し、視覚に配慮しながら興味・関心のある学習を取り入れ、ICTや外部人材を活用した学習を行う。	ICTや、外部人材を活用した学習を通して、興味・関心を広げ、探究的な学習ができた。視覚障がいの専門性を高める校内研究を通して、授業を改善することができた。	A	ICT等を活用した授業や視覚障がいの専門性向上に向けた校内研究が行われている。今後も維持・継承の継続が大切である。	地域の人材を活用した授業や専門性を高める研修会を行い、教科指導等のスキルの向上を図るとともに、互いに授業を見合う機会を設定し、指導力を高める。

3	<ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感、自己肯定感 ・互いの良さを認め合う ・自分を表現できる力 	道徳の時間や特別活動、その他の教科において、聾学校や他の盲学校とのオンラインでの学習する機会を設定する。	オンライン交流などを通して、自分の良さや相手の気持ちを考える機会を設定したことで、話し合い活動で自分の気持ちを伝え、相手を思いやったりする様子が見られた。	B	人数が少ないことを考慮し、様々な学習が計画されている。複数で活動することで他の人のよさや考えに気づき、コミュニケーションの力を育てることにつながっている。	自己理解や他者の考えを知る機会を設定し、自分を表現する力を伸ばすとともに、互いを認め合う活動を今後も実施する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携した教育活動 ・学校運営協議会の参画 ・地域資源を生かした活動 	地域の人材を活用した家庭教育学級、校外学習や外部講師による学習、学校運営協議会における熟議の推進を行う。	委員からの紹介で地域の人材を活用し、アイラブ八戸の事前学習、当日の学習を実施し充実した学びができた。また家庭教育学級と連携した教育活動も実施することができた。	A	学校運営協議会の熟議に生徒が参加したことで、児童生徒の願いが分かり、委員が紹介することで様々な学習の実施に協力することができた。	体験を通して地域の良さを知ることができている。全校体制で学ぶアイラブ八戸を継続し、協働して学校づくりに取り組む。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の充実 ・情報教育の推進 ・国際理解教育の推進 	キャリアパスポートを活用して将来を考えるとともに、職場見学や職場体験、ICT活用による情報収集に努める。	三沢米軍基地との国際交流やALTとの学習、県立盲学校の見学や職場見学、ICTを活用した学習などを活発に取り入れ、推進することができた。	A	進路に向けた見学や体験が積極的に行われている。将来のことや地域のことを調べ、実際に体験することで学習が充実している。	地域で自立した生活を営む人材を育成するために、学校で教育できることを整理し、学齢に応じて指導する必要がある。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の仕分け ・整理整頓 ・年休の計画的消化 	二つ以上の業務の削減や縮小を目標に業務を見直し、年16日以上年休の取得を推進目標として設定する。	ワークライフバランス推進目標を掲げ、年休16日以上取得を達成できた。時間外及び休日労働時間の平均時間や、月45時間以上勤務の教員数が昨年度より減少した。	A	時間外勤務時間もさほど少なく、年休取得の目標は達成されてはいないが、昨年度よりも改善され働きやすい職場である。	組織的に年休取得を促し、授業に支障がない範囲内で教員が交代で年休を取得できるように計画する。確実に実施するため、業務を削減する必要がある。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・服務規律の遵守 ・学校組織の在り方の共有 	服務規律に関する資料を提示して徹底を図るとともに、職員室で気軽に話し合える雰囲気醸成する。	授業での児童生徒の様子を職員室で語り合い、授業を見直す機会が得られていた。体罰やセクハラなどの含む規律違反はなかった。	A	職員室で児童生徒について語り合う雰囲気があり、教員間の同僚性がある程度保たれ、教員としての服務規律が遵守されている。	携帯電話のマナーモード設定、個人的なことを大声で長時間話さないなど、職員室内のマナーの向上を図る。
(11) 総括	<p>児童生徒、保護者、教職員（教員、寄宿舎指導員、事務職員）、学校運営協議会委員によるアンケートを4件法で実施した。児童生徒の評価が平均3.44、保護者の評価が平均3.70、教員が平均3.63、寄宿舎指導員が平均3.62、事務職員3.92、学校運営協議会委員3.66で、いずれも段階評価Aという高評価であった。今後も、学校運営協議会を効果的に活用しつつ、教育活動に地域の特色を探る学習を取り入れ、地域の中で生きる力を育成することを推進する。</p>					